

## 論説

### 特集：日本の鉄道ビジネスの海外展開

#### ■ JR東日本の海外鉄道事業の展開

山西 祥

東日本旅客鉄道株式会社 (JR東日本)  
国際業務部 企画グループ課長

近年、環境に与える影響が少ない公共交通機関として、鉄道が再評価されており、世界各地で多くの鉄道建設プロジェクトが進められている。これらのプロジェクトは、従来の建設や調達によって構成されるものから、運行やメンテナンスまで含めたパッケージ型へと変化してきている。JR東日本は、2012年に発表した「グループ経営構想V～限りなき前進～」において、グローバル化を目標の一つに掲げており、海外鉄道事業への参画するための施策を着実に進めている。本稿で、同社の海外オフィスの活動、国際機関および海外の鉄道事業への参加の取り組みについて紹介する。

#### ■ ベトナムハノイ市都市鉄道整備事業支援

長谷川 收良

東京地下鉄株式会社  
鉄道本部 鉄道統括部 海外鉄道技術担当課長

近年、新興国を中心に、地下鉄道の需要が高まっており、ベトナムも例外ではない。東京メトロは、従来よりベトナムの鉄道関係者の研修、視察を受け入れてきたが、2013年に独立行政法人国際協力機構(JICA)より「ベトナム国ハノイ市都市鉄道規制機関強化及び運営組織設立支援プロジェクト」の受注を獲得し、それに伴い、ハノイ市に現地事務所を設置した。本稿で、同プロジェクトにおける同社の取り組みを紹介する。

#### ■ コンセッション、PPP (官民パートナーシップ) によるブラジル旅客鉄道事業への参画について

大野 和彦

三井物産株式会社  
交通プロジェクト部旅客輸送事業室 室長補佐

内田 武史

交通プロジェクト部旅客輸送事業室 マネージャー

経済成長に伴い、ブラジル・サンパウロ市では交通渋滞が問題化しており、信頼できる公共交通を作ることは最優先課題となっている。このことを背景に、三井物産株式会社はOdebrecht GroupとPPPとコンセッション事業の推進を目的とした合弁会社を設立し、ブラジルの旅客鉄道市場に参入した。本稿で、本事業に参画を決めた経緯、同社の旅客鉄道分野における過去の取り組み、商社の視点から見た旅客鉄道事業の狙いと捉え方、そしてこの分野における日本の鉄道事業者への期待について述べる。

### 特別寄稿

#### ■ 上野東京ライン建設工事についての概要

東日本旅客鉄道株式会社 (JR東日本)  
建設工事部

1987年に設立されたJR東日本は、関東甲信越から東北までの広範囲で営業している。同社の東京における主要路線は大変な混雑で知られていたため、その解消が重要な課題であった。また今日の旅客は、快適性や移動時間の短縮も鉄道に求めており、同社はそれに応えるため各種の施策を行ってきた。上野東京ラインはその一つで、東京から北に向かう宇都宮線、高崎線、常磐線と南に向かう東海道線をつなげて、山手線及び京浜東北線の混雑緩和を目的としている。同線の建設について、概要を紹介する。

#### 日本鉄道史上のブレイクスルー 14

#### ■ 日本における鉄道トンネルの歴史

小野田 滋

公益財団法人鉄道総合技術研究所

140年の日本の鉄道の歴史に残る技術面の発展飛躍(ブレイクスルー)に焦点を当て、一般読者向けにわかり易く解説するシリーズの第14回目。今回は日本における鉄道トンネルの歴史について紹介する。

#### もうひとつの視点から

##### □ 第二の祖国、日本

ディリアフルズ・フサノヴァ

故郷で日本のテレビ番組制作に関わったことがきっかけで、日本に関心を持ったウズベキスタン人の著者が、数回にわたる日本滞在での日本人との交流について語る。

#### トピックス

##### □ 2015年2月から7月

#### 写真特集

##### □ 海外に進出する日本の鉄道車両